

製品名: DAPKinase1 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe83727**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ICC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.53mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウム、0.05% 保護タンパク質、50% グリセロールを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:2000,IHC 1:100-1:200,ICC/IF 1:50-1:200,ICC 1:50-1:200
分子量	160 kDa

抗原情報

遺伝子名	DAPKinase1
別名	DAK1; DAP K1; DAP kinase 1; DAPK 1; DAPK; DAPK1; DAPK1_HUMAN; Death Associated Protein Kinase 1; Death-associated protein kinase 1;;DAP kinase 1
遺伝子 ID	
SwissProt ID	P53355
免疫原	ヒト DAP キナーゼ 1 由来の合成ペプチド

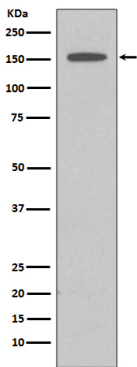
背景

カルシウム/カルモジュリン依存性セリン/スレオニンキナーゼは、細胞生存、アポトーシス、オートファジーを誘導する複数の細胞シグナル伝達経路に関与する。細胞環境に応じて、I型アポトーシスとII型オートファジーの両方の細胞死シグナルを制御する。前者はカスパーゼ依存性であるのに対し、後者はカスパーゼ非依存性であり、オートファジー小胞の蓄積を特徴とする。PIN1をリン酸化することで、その触媒活性、核局在、および細胞機能を阻害する。TPM1をリン酸化することで、内皮細胞におけるストレスファイバーの形成を促進する。STX1Aをリン酸化することで、STXBP1への結合を著しく減少させる。

研究分野

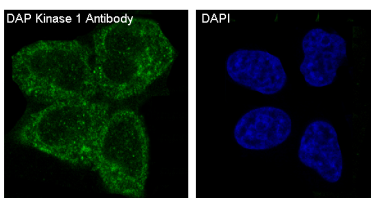
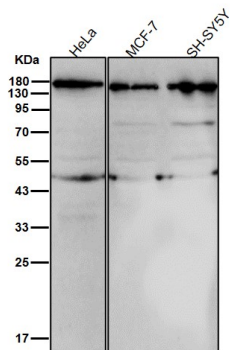
-

画像データ

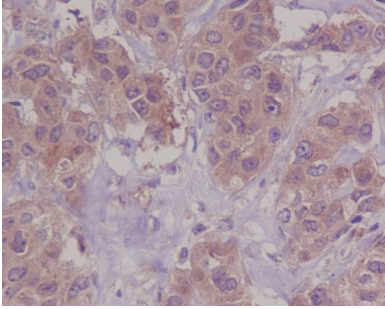


HeLa 細胞溶解物中の DAP キナーゼ 1 発現のウェスタン ブロット分析。

すべてのレーンでは、抗体を 1:2k 希釈で室温で 1 時間使用します。



DAP キナーゼ 1 抗体を使用した HeLa 細胞の免疫蛍光分析。



DAP キナーゼ 1 抗体を使用した、パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学分析。